



かさかえで 傘楓

平成29年
秋彼岸号

開基八百五十年記念事業

慈光寺は来年**平成三十年に「開基八百五十年」を迎える**こととなります。

残念なことに過去数度の火災や戦乱により、当山の歴史を証明する資料を失っておりますが、次のような縁起・由来が今に伝わっております。

当山は仁安三年(一一六八)にももとは天台宗として開山します。その後、時宗の二祖上人である真教上人の勧めにより、時宗に転宗しました。

古くは甲州(山梨県)にあつて、時期は不明ですがおそらく南北朝の争乱の頃(一四七〇年頃か)、三戸南部氏の流れを汲む久慈氏によつてこの地に移されたといわれています。

しかし、天正十九年(一五九一)の「九戸政実の乱」に巻き込まれ久慈氏は滅亡。その久慈氏の菩提寺であつた慈光寺も堂宇が焼き払われ、その後も転々と所を替えて草庵を結び、法燈を守つていました。現在の洋野町大野蒲ノ口に寺屋敷と呼ばれる場所がありますが、そこも慈光寺の跡地の一つであつたと伝えられています。



江戸時代になり八戸藩が創設されると、この大川目の地が久慈氏の氏族である撰待氏の知行地となります。撰待氏は旧縁により慈光寺を保護し、久慈家先祖代々の菩提を弔う寺として、今の場所に再興します。これをきっかけに檀信徒も増え、江戸末期には南九戸郡一帯の大半の家々の菩提寺として隆昌を誇りました。

しかし、宝暦と安永年間(一七五一、一七八一)に二度の火災に遭い、また明治時代初頭の廃仏毀釈の法難が慈光寺に襲いかかり、廃寺となつて無住(寺に住職がいなくなる)ことの十年間荒れるままにされ、檀家も離れ、ご本尊である仏像や仏具、山林や田畑といったすべてを失います。考えるに、この時期が最も寺存亡の危機にあつたと言えるでしょう。

明治十三年、当時の大川目村および山形村戸呂町の有志が力を結集し、『遠野市常福寺塔中廃寺のご本尊を奉請し(招き入れること)、明治十三年十月、ご本尊を遷座して、供養式をあげた。』と「九戸郡誌」に記載されています。

そして、慈光寺五十八世快輪和尚の現存する記録を頼りに、昭和四十三年八月二十日の日に前任職・泰道和尚のもと、「開基八百年祭」を執り行い、記念事業として梵鐘の購入や鐘楼堂・山門の修理を行った次第でございます。

このたび開基八百五十年を迎えるにあつて、一昨年より総代役員会にて協議を重ね、「開基八百五十年実行委員会」を発足し、今回にふさわしい記念事業を慎重に検討してまいりました。

そして、役員会の承認を経て、三つの記念事業が決定しましたので、ここに報告させていただきます。

① ご本尊及び両脇侍 修復事業

この慈光寺は、岩手県北唯一の念仏道場であります。

なぜか県北には、他の時宗寺院もなく、同じようにお念仏を称える浄土宗や浄土真宗のお寺も全くございません。

その歴史背景はわかりませんが、もし慈光寺にお阿弥陀様がいらしたらやらなければ、「南無阿弥陀仏」の教えも、この地方でも今も我々が宗派を問わず葬儀の際に行つている「数珠廻し」も、現在まで伝わっていません。

このことから、いかにご本尊さまが当山の檀家だけでなく、この地方すべてのご先祖さまの霊を、明治の世から今日に至るまでお守り下さつていらっしゃるか、おわかり頂けるかと存じます。

前段に記述しましたとおり、ご本尊の阿弥陀如来坐像と観音菩薩・勢至菩薩の両脇侍は、遠野・常福寺様よりおいで頂いてから、今日まで一度も修復する時間がございませんでした。

今回の開基八百五十年を機に、お阿弥陀様が以前の綺麗なお姿を取り戻し、今後も我々々々この地域を百年二百年と

ご加護を頂き、お念仏の教えが未来へとつながることを願う記念事業と致します。

(裏面に続く)



② 記念誌 発刊事業

前のページでも申しましたとおり、慈光寺は度重なる災難により、寺院の歴史を記した文献や資料等を一切消失しております。

しかしながら、今回当山の総代でもある大森竹之助先生の監修のもと、古くから伝わる手記や古文書を頼りに慈光寺の歴史を考察した記念誌を発刊したいと存じます。

当然、寺の歴史だけではなく、この久慈地方の歴史や九戸政実の争乱がどのように慈光寺に関係したかといった戦乱の歴史も含まれます。

これにより、慈光寺やこの地域の時代考証に大きな足跡を残す重要な事業となり得るでしょう。

③ 御本尊遷座法要(記念法要)

「遷座」とは、神仏が移り移動することを指します。

今回、修復を済ませたご本尊さまを、改めて慈光寺の本堂にお迎えする「御本尊遷座法要」を三つめ最後の記念事業と致します。

遷座法要の日取りは、当山の年中行事である開山忌法要の日、**平成三十年十月二十一日(日)**に厳修致します。

法要の時間などの詳細は、追って来年お知らせ致しますが、今回の法要はより多くのお檀家さんご参加のもと、盛大にご本尊をお迎え致したいと思っております。

何卒いつも以上のご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。合掌

知っていますか？
知ってほしい！

お知らせ

慈光寺 年中行事

年中行事とは「毎年同じ日(時期)に行っている行事」のことです。慈光寺の年中行事は次のとおりです。

修正会

元日(元朝)

春彼岸法要

春分の日

初盆合同供養

八月十一日

お焚き上げ供養

八月十三日

久慈備前直治公 慰霊法要

九月二十日

慈光寺開山忌法要

十月二十一日

これ以外にも久慈市と協力して「寺子屋合宿」も毎年行っております。

年中行事に参加することは「お寺を護る」と同じであります。

開山忌法要のように供養料を納めて寺を護持すること以外にも、古い塔婆をお焚き上げしてお墓の美観維持に努めること、この久慈を戦禍からお守り下さった備前の殿様へ感謝して我が家と菩提寺と故郷の発展を願うこと、そして新年や彼岸などの節目にご先祖さまの安寧と自分

の決意を新たにしている修行の場を設けること、どれもお寺を護ることにつながっております。

「自分のことを忘れて他人の幸せのため尽力すること」「を仏教では「忘己利他」と申し、「慈悲の究極のすがた」とされ、最上の仏道修行ともいわれます。

「毎日お寺を護って下さる」といわれるのであれば皆様も「もう懲りた…」と申すのでしようが(笑)、一年に数回の年中行事には積極的に参加して、菩提寺にご先祖さまを護る「修行の場」と考えて頂けたらと存じます。

皆様が、いつも慈光寺を護り支えて下さっていることを我々和尚も心から感謝しております。合掌

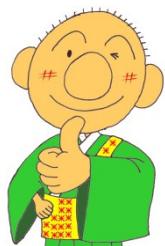
編集後記

時々お檀家さんに「新聞、楽しみにしていますよ」とお声を掛けられて、その喜びを力に何とか今年も遅れましたが寺報「傘楓」を発刊できそうです。

昨年は台風のために久慈の秋祭りは中止となりましたが、今年こそは晴天に恵まれて、久慈備前守を讃えるよき日となれば最高ですね。

最後までお付き合ひ頂き有り難うございます。

(副住職 大悟 九拜)



久慈備前直治公 慰霊法要

日時 平成 29 年 9 月 20 日(水)

午前 10 時より

場所 慈光寺本堂

9月20日は久慈城最後の城主・久慈備前直治公のご命日です。
ぜひご焼香にお参りください。